

Webサイトではより充実した情報をお届けします!

学生のMovieなども充実!

父母教育後援会
<http://www.ritsumei-fubo.com/>

立命館大学HP→保護者の方

立命館 父母教育後援会

■会員の住所変更について

本誌は、学生が学部に届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。
学びステーションまで学生証を持参の上、手続きするようお子さまにお伝えください。
※最近、立命館や関係団体等の名刺を利用した悪質なビジネス等が横行しております。
父母教育後援会は、会員の照会を学生には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。



2018年度
春号

特集
1

立命館の躍進

特集
2

食マネジメント学部誕生

ゼミナール訪問

クラブ&サークル Watching

知への扉 ～教員インタビュー～

識者の視点「ビットコインの未来」

卒業生からの手紙

あるある **R** 探検隊

キャンパス三都の風土記

立命館の躍進

立命館大学の最大の特色の一つは、イノベーションを生み出す改革力です。2018年4月に開設した食マネジメント学部に象徴されるように、既存の枠組みにとらわれない新しい学問領域の開拓に挑戦し続けています。今号の特集では躍動する立命館が目指す未来についてご紹介します。

Daily Life

01

Ritsumeikan

私たち、
今日も元気です。

今号の1枚



「おいしいね、朝ごはん」

立命館の朝はおいしくて栄養満点の「100円朝食」から。本学が全国の大学に先駆けて実施した100円朝食は学生たちに大好評です。栄養にも配慮したバイキングメニューで、家庭にいる時のようなあたたかい料理にお腹も心も満たされます。



100円朝食は父母教育後援会が、学生の規則正しい健康的な生活と学習習慣を作るために支援している活動です。

Contents

特集1

P2 立命館の躍進

特集2

P7 食マネジメント学部誕生

- P11 ゼミナール訪問
- P15 クラブ&サークル Watching
- P17 知への扉～教員インタビュー～
- P19 識者の視点「ビットコインの未来」
- P21 卒業生からの手紙
- P23 あるある R 探検隊
- P25 キャンパス三都の風土記
- P26 読者の声／TOPICS



大阪いばらきキャンパス

2015年に開設した大阪いばらきキャンパスは、3学部5研究科を備える新しいキャンパス。地域社会に開かれた、たくさんの人々が集う場所でもあります。

R2020を経て、 学園ビジョンR2030へ。

「Creating a Future Beyond Borders 自分を超える、未来をつくる。」

この「学園ビジョンR2020」のもと、立命館学園は様々な改革に取り組んできました。

R2020が後半期を迎えた今、さらなる未来を見据えて、

「学園ビジョンR2030」という新しい構想を掲げました。

R2020からR2030へ。次のステージに進む立命館のこれからについて紹介します。

変化の激しい時代をリードする立命館の新展開。

改革力で激動の時代に提言を。

立命館の新しい「挑戦」が始まる。

■ 現在、「学園ビジョンR2030」は原案ができた段階で、今後は全学的な議論を経てブラッシュアップをしていくことになります。これまで「Beyond Borders」というメッセージのもと、学生が様々な "Border" を乗り越え、成長していくための環境を整備してきました。これを継承しつつ、R2030では「挑戦」を一つのキーワードに掲げ、学生だけでなく、教職員や校友も含む学園全体が一丸となって改革に取り組み、これからの時代に社会に貢献する大学としての存在感を高めていきたいと考えています。

近年、日本の少子高齢化と人口減、AIやIoTの進化により加速する技術革新、極端なナショナリズムの台頭による国際情勢の不安定化など、世の中は激しい変化の時代を迎えています。2030年の未来に、世界がどうなっているのかを予測することは極めて困難ですが、私たち立命館が、日本、そして世界はどうあるべきかを提案していくべきだと考えています。それこそが本学の存在意義であり、「自由と清新」という建学の精神のもと、連綿と受け継がれてきた伝統であると言えるでしょう。保護者の皆さんにおかれましては、お気づきの点や本学に期待することなどがございましたら、ぜひ積極的にお声を上げてほしいと思います。私たちは常に変わり続ける大学であることで、社会の変化に柔軟に対応する、あるいは社会に変化を起こす存在でありたいと考えています。どうかこれからの立命館に、大いにご期待ください。

学園ビジョンR2020
Creating a Future Beyond Borders
自分を超える、未来をつくる。

学園ビジョンを支える3つの柱

- ・多様なコミュニティにおける主体的な学びの展開
- ・人類・自然・社会に貢献する立命館らしい研究大学への挑戦
- ・学ぶことの喜びを実感できる学園づくり

学園ビジョンR2030

重視すべき政策・柱(基本目標)

- ・世界をつなぐ縦・横のシームレスな学びの展開
- ・次の段階のグローバル教育
- ・テクノロジーを融合した先駆的な教育・研究の推進
- ・新たな価値を創造し、未来の社会を担う研究大学の実現
- ・社会の変化に柔軟に対応した学問分野・教育手法の革新と提案
- ・未来の社会を描くキャンパスの創造
- ・多様な個と組織の価値を高めあう学園創造と運営
- ・社会から求められる学園



常務理事(企画担当)
学園ビジョンR2030策定委員会
委員長
建山 和由 理工学部教授
専門分野では建設業界の改革に挑戦しており、大学改革と平行して取り組むことで、互いに新しい発想が生まれています。

立命館大学で躍進する学生たち



一人ひとりのオリターの個性を大切にして、適材適所の組織運営ができるように心がけています。

Peer support

学生同士で支え合い、成長できる環境。
人の役に立つ仕事にやりがいを感じます。

経営学部自治会オリター団の団長を務めています。オリター団は立命館大学独自の「ピア・サポート」制度の一つで、先輩学生が新入生のパートナーになって、学修のことや学生生活のことなど、学生ならではの視点からアドバイスします。私も先輩に憧れてオリターに入り、現在は団長として組織の自動的な運営に携わっています。経営学部では組織マネジメントを学んでいるので、実践的に学ぶ絶好の機会にもなっています。

小門 寛さん オリター団団長 経営学部4回生



アメリカ留学中に大統領選があり、歴史の転換に立ち会えたので感激しました。



多様な背景を持つ人と交流し、
国際社会で活躍する自信がつきました。

グローバル・スタディーズ専攻で、多くの留学生と共に英語ベースで国際政治について学んでいます。2回生の時にはアメリカ・ニュージャージー州に長期留学し、現地の学生と共にアメリカ政治や中東の国際関係などを学びました。生まれた国も、人種も、考え方も、価値観も異なる人々と議論することで身についたのは、本当の意味でのコミュニケーション能力。相手を理解し、自分の思いを伝えるための方法を学ぶことができました。

今村 健太さん 国際関係学部4回生

Global

まだ見ぬ微生物が世界を変える!?
可能性に満ちた研究が面白い。

バイオテクノロジーの研究をしており、微生物が持つ有用な酵素(タンパク質)を探っています。目に見えない微生物の酵素が、環境汚染のような地球規模の問題の解決につながる可能性があるところに研究の魅力を感じています。研究室では微生物を広く取り扱っており、食品や医薬品に関する研究をする学生もいます。自分の専門分野とは別の視点から意見やアドバイスがもらえるので、視野が広がっていくのを感じています。

葛野 侑香さん 生命科学研究科 博士課程前期課程2回生



Research



Facts of Ritsumeikan

立命館をつくる多様な事実



since 1900

1900(明治33)年、西園寺公望の秘書・中川小十郎が立命館大学の前身「私立京都法政学校」を創立しました。



校友
約36万人

校友とは、立命館大学の卒業生のこと
を指します。会員数は約36万人となって
います。
(2018年3月現在)

京都を起点に
滋賀、大阪への
キャンパス展開



衣笠キャンパス

金閣寺、龍安寺、仁和寺など、多く
の世界遺産に囲まれた歴史ある
キャンパスです。

びわこくさつキャンパス

1994年4月開設の「文理融合型
キャンパス」。琵琶湖の南東に位置
し、「BKC」の通称で親しまれます。

大阪いばらきキャンパス

2015年4月に開設した地域に開か
れたキャンパス。産業界や行政との
連携も一層強化。通称は「OIC」。

全国47都道府県から
集まる学生たち

47都道府県
約50%は近畿圏外から



立命館大学には全国47都道府県のすべてから入学者が
います。近畿圏外からの学生が約50%となっており、全
国各地から多様な価値観を持つ学生が集っています。

学部生・大学院生
約3万6千人

立命館大学・大学院の学生数は約3万6千人で、関西
地区で1位、全国でも3位の規模を誇ります。出会い
に満ちた学生生活で視野を広げることができます。
(2017年5月現在)

クラブ・サークル
430以上

立命館大学には430を超えるクラブ・サークルの団体
があり、スポーツ、文化、国際交流、ボランティアな
ど、様々な分野で活発に活動しています。



文部科学省指定
スーパー
グローバル大学

世界に通用する人材の育成を目指し、
1980年代から国際化を進めてきた立命
館大学は、関西私大でわずか2校のスー
パーグローバル大学に指定されています。



海外留学(年間)
約1,800名

全学募集プログラムと学部プログラムな
ど多彩な留学プログラムを用意していま
す。年間約1,800名が短期、長期で世界
の様々な国・地域に留学しています。
(2017年5月現在)



65ヶ国・地域、
全442大学・機関と提携

世界中の大学・機関と交流協定を締
結し、学生の交換留学や学術交流を
実施しています。
(2017年5月現在)



外国人留学生
68ヶ国・地域、約2,000名

世界68ヶ国・地域、約2,000名の留学生が集まっており、日常的
に国際交流をすることができる環境となっています。今後もさら
に留学生の受け入れ体制を整えていく予定です。
(2017年5月現在)



学生による学生支援
「ピア・サポート」



学生の学生による支援が充実。新入生をサポートするオリターや
留学生の日本での暮らしを支援する留学生バディなど、立命館大
学独自の取り組みで共に支え合い、成長できる環境があります。



1946年から続く市民講座
「土曜講座」

戦後から続く伝統ある市民
講座です。創設した故末川
博名誉総長の「大衆とともに」
という意志を受け継ぎ、大学の講義を広く市民
に開放しています。



15学部、22研究科

多様な研究に取り組む立命館大学。既存の枠組みに
とらわれない新しい学問への挑戦から、他に類を見な
いイノベーションが生み出されています。



全国私大
第3位

文科省科研費獲得額

文部科学省が発表した「平成28年度科学研究費補助金(科研費)の配分」
において、採択金額で私立大学3位(西日本私立大学1位)、採択件数では
私立大学4位(西日本私立大学1位)となりました。



6研究機構、
45拠点融合型の研究の実践

学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的
として、人文社会科学分野、科学技術分野の学際的
で多様な研究活動を支える拠点を設けています。

農学でも、栄養学でもない、

世界を
おいしく、
おもしろく。



常にイノベーションを追求し続ける立命館が、
また一つ新しい学問領域の扉を開きます。

2018年4月に誕生した「食マネジメント学部」は、「食」を総合的に研究する日本で初めての学部です。これまで「食」に関する研究というと農学や栄養学などで取り組むものがほとんどでしたが、あえてこれまでにないアプローチで「食」の新学部を創設した狙いはどこにあるのか？今回の特集では、新しい領域に挑戦する食マネジメント学部の学びについて紹介し、この新学部がこれから社会でどのような役割を果たしていくのかを考えていきます。

食マネジメント学部 概要

College of Gastronomy Management

学部名称	食マネジメント学部
学科名称	食マネジメント学科
入学定員	320名
開設年度	2018年度(平成30年度)
開設場所	びわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市)

教学理念

経済学・経営学を基盤としながら、食科学の深い知見を培い、高度なマネジメント能力と実践的な行動力を備え、食の人類的な課題の解決に寄与できる人材を育成します。

日本初の「食」の総合研究教育拠点。

食マネジメント学部が目指すもの

飢餓と飽食が併存する現代では、食の安全、流通、食文化など、様々な問題が複雑に絡み合っています。

一つの学問分野ではもはや解決不能で、既存の枠組みにとらわれない新しい学問が今、社会に求められています。

食マネジメント学部はこうした時代の要請を受け、立命館大学が日本で初めて作る新しい学部です。

「食」と「マネジメント」という2つのキーワードから、世界が直面する課題に正面から取り組みます。

フランスのル・コルドン・ブルー、イタリアの食科学大学など世界のトップランナーとの連携など、

新しい分野を開拓するにふさわしい先進的なカリキュラムで、世界で活躍できる人材の育成を目指します。

学びのフィールド

1.フードマネジメント

経済学・経営学の基礎を身につけ、グローバル化する「食」の供給・消費の仕組みや地域の役割を体系的に理解とともに、社会にとって最適な政策や、「食」に関わる組織や企業のあるべき姿、先端の経営技法を学びます。

2.フードカルチャー

日本や世界の食行動を文化的、地理的、歴史的な視点から学び、「食」の多様性と奥深さを知るとともに、「食」と人の織り成す様々な文化を理解します。学びを通じて世界に触れ、異文化理解力と外国語コミュニケーション力も磨きます。

3.フードテクノロジー

官能評価学や認知科学の側面と、栄養学や調理科学の側面から、「食」にアプローチ。人が安全においしく食べるとはどういうことかについて科学的に理解することで、新たな「食」の可能性を開く素養を身につけます。

想定される進路

立命館大学特設サイトへGO／

食の世界で活躍する人を紹介！

ガストロノミア



<http://www.gastronomia.jp/>

2018年4月
食マネジメント

学部誕生！

「食科学」が切り開く未来

食の安全や世界的な食料問題への関心の高まり。またフードビジネスの隆盛や食分野へのIT技術の導入といった情勢の中で、

立命館大学が新しい学問領域を立ち上げました。

日本で初めての「食」の総合研究教育機関として動き出した食マネジメント学部は、どのような経緯で作られ、どんな人材を育成していくのでしょうか。

新学部のキーパーソンである朝倉 敏夫学部長と井澤 裕司教授のお二人に、設立にかけた想いと今後の展望について話を聞きました。

**「食」の専門教育は世界では常識。
日本は諸外国に遅れを取っている。**

——なぜ、今、立命館大学に食マネジメント学部を創設することになったのですか？

井澤教授（以下、井澤） 実は「食」の学部を日本に作るべきだという議論は以前からありました。世界最高峰の「フードマネジメント」を学べるアメリカのコーネル大学、イタリアの片田舎にありながらスローフードで世界中から人を集め食科学大学などを筆頭に、「食マネジメント」は世界的に極めて注目度の高い学問分野です。その意味で日本の大学教育は圧倒的に遅れているのです。もちろん、農学や栄養学の学部はあるし、専門学校を中心に調理を学べる教育機関は少なくありません。しかし、私たちが生きていく上で欠かせない営みである「食」の学問は、もっと広い視点で語られるべきものなのです。



井澤 裕司 | Hiroshi Izawa

食マネジメント学部 教授

専門は金融論、行動ファイナンス。（財）電力中央研究所経済研究所研究员、摂南大学経営情報学部助教授などを経て、本学経済学部教授から食マネジメント学部教授に就任。

新たな学問分野を立命館が創造する。

朝倉学部長（以下、朝倉） 井澤先生がおっしゃる通り、「食」とは本来、人類の未来を考える上で必要不可欠な大きなテーマの一つです。家庭での食事から地球規模で考えるべき課題まで、非常に幅が広い学問分野だと言えるでしょう。しかし、これまで日本では、「栄養士になりたい」「飲食店で働きたい」などのごく限られた進路を希望する人にしか受け皿となる教育機関はありませんでした。

井澤 そこで「ならば、立命館が作りましょう」と私たちが手を上げたことで今回の新学部設立へつながりました。

あらゆる分野に人材を輩出する。

——「食」のプロフェッショナルはどんな場面で求められているのでしょうか？

井澤 私の専門分野である経済学の視点で見ると、世界の「食」の市場規模は2009年に340兆円だったものが、2020年には680兆円になると言われています^{*}。こんな巨大なマーケットがあるのに、「食ビジネス」を専門的に学ぶ受け皿が日本の大学にはなかったのです。他にも今、日本政府が取り組む地方創生の分野でも「食」は重要なキーワードですし、少子高齢化の問題にしても「食」を抜

「食」の新しい学問分野を創造することが、立命館の使命です。

きに語ることはできません。「食」というキーワードから、ビジネスも、地方行政も、世界経済も含め、あらゆる分野に人材を輩出する日本初の教育機関を作るのが私たちの使命だと考えています。

※2014年9月農林水産省

「食」という巨大マーケットに、全国から多様な志を持つ学生が集まる。

朝倉 今回、日本で初めての食マネジメント学部として学生募集を実施したところ、日本全国の多様な志を持った受験生から大きな反響がありました。「食」という分野への潜在的なニーズがこれほど大きかったことに私たちもたいへん驚いております。

井澤 多様性が立命館の強みですが、それにも食マネジメント学部への反響は予想以上でした。九州から故郷の過疎化を何とかしたいと入学した学生、世界一のシェフを夢見ながら、調理だけでは通用しないと考えて入学した学生、他にも「食」で世界を平和にしたい、環境問題を解決したい、「食」で起業をしたいなど、実際に様々な志を持った学生が全国各地から集まってくれました。

朝倉 ここで学んだ学生が、「食」の未来を変えていくと私たちは確信しています。

**特色ある教育カリキュラムを確立。
進路に合わせて学びをデザインできる。**

——学生にはどんな教育を施していくのでしょうか？

朝倉 「食」関連の仕事で通用する人材を育成するためには、多彩な教育メニューが必要になります。学部長の私は文化人類学、韓国社会研究を専門としており、ここにいる井澤先生は行動経済学とファイナンスの融合領域である「行動ファイナンス」のスペシャリストです。他にも認知科学、経営工学、栄養学、歴史学など実際に様々な分野の専門家に集まっています。

井澤 そして、特筆すべきは異文化理解と外国語コミュニケーションの教育に力を入れているところです。冒頭で述べたように、「食」の教育分野で日本は世界に遅れを取っています。世界から情報を

**多様な志を抱いた
新学部の開拓者たちが、
「食」の未来を変えていく。**

収集する、あるいは世界に発信できることを食マネジメント学部の学生にとって基本的素养の一つであると考えています。

朝倉 そのため外国語科目は文学部、国際関係学部に匹敵するほど充実しており、第2外国語ではイタリア語、フランス語など「食」の本場の言語を学ぶこともできるカリキュラムとなっています。

「食」の世界の聖地を目指して。

井澤 大切なのは学生が何になりたいかです。例えば、「食」を流通させるマーケターとして活躍したいなら流通・マーケティングや統計学を学ばなければならないし、フードジャーナリストとして活躍したいならコミュニケーション能力などの「伝える」力が不可欠です。学生が自分の進路目標に合わせて学びをデザインできるところにこの学部の魅力があります。

朝倉 私たちがモデルとした世界最高峰の「食」の教育機関であるアメリカのコーネル大学とイタリアの食科学大学には対照的な面がある、コーネル大学はビジネス至上主義であるのに対して、食科学大学はスローフードなどの思想を世界に広めることに重点を置いています。私たちの食マネジメント学部はそのどちらも学生が選択できるようにして、社会の要請に応えていきたいと考えています。

井澤 今後、日本でも「食」専門の教育機関が増えていくことになると思いますが、私たちは常にトップランナーであり続けたいと考えています。情報通信産業の聖地がシリコンバレーであるように、「食科学」と言えば、誰もがこのびわこ・くさつキャンパスを思い浮かべるような世界一の学部を作り上げていきたいと考えています。



朝倉 敏夫 | Toshio Asakura

食マネジメント学部 学部長

専門は文化人類学、韓国社会論。韓国の社会と文化について、家族や食の視点から調査研究している。国立民族学博物館名誉教授。2018年4月、食マネジメント学部の学部長に就任。



伊藤 将弘

生命科学部 教授

大学卒業後にコンピュータの可能性を感じ、生命学と融合させた研究を開始。ヒトゲノムの研究から生命の新しい法則を見出し、病気の治療法などに役立てる研究に挑戦している。

伊藤 将弘ゼミ

●びわこ・くさつキャンパス 生命科学部

テーマ 「ヒトの設計図であるヒトゲノムを解き明かす」

伊藤先生の研究室では過去に何度もノーベル賞の立役者となった「線虫」に注目し、細胞の癌化などヒトゲノムの後天性機能について探究。ガンや他の遺伝的疾患の治療につながる遺伝情報の解明に取り組んでいる。

ゼミ生VOICE

阿知和 実子さん

プログラミングに関心があってこの研究室に入りました。代謝経路に遺伝子の発現量をマッピングできるツールを作成する研究をしています。

岩波 千春さん

コンピュータによる遺伝子の解析に惹かれてこの研究室を選びました。ヒトの生命活動(新陳代謝)をつかさどる酵素の解析に取り組んでいます。

内田 晴基さん

学会に参加させてもらってうれしかったです。高いレベルで活躍する研究者からアドバイスをもらい、私もがんばろうという意識が高まりました。

大西 優斗さん

生命活動がヒトに似たモデル生物の線虫を題材に、受精直後の初期胚発生で機能する遺伝子について、コンピュータで網羅的に解析しています。

下崎 五津子さん

生物学と情報科学の融合した研究に魅力を感じてこの研究室を選びました。学会発表に挑戦させてもらい、大きな自信につながりました。

新里 唯さん

ノーベル賞に関わった線虫を取り扱っているところに魅力を感じました。線虫の遺伝子がどのように機能しているのかを研究しています。

鈴木 由莉香さん

線虫の遺伝子を欠損させ、どう機能するのかを研究しています。プレゼンテーションの機会が豊富なので、資料作りや発表には力を入れています。

関 海斗さん

希少疾患の研究をしています。研究に行き詰まっていた時に、先生や仲間が親身になって支えてくれて、このチームの素晴らしい姿を実感しました。

田中 慧さん

バイオインフォマティクスに可能性を感じて研究室に入りました。ガンや神経疾患の原因になる遺伝子を解明する研究に取り組んでいます。

田中 純さん

エビジェネティクスの研究の本場・アメリカで学会発表を経験しました。最先端で活躍する研究者の前で発表した経験は忘れない思い出です。

中村 孝大さん

「糖鎖」の研究をしています。その構造にはまだ謎が多いので、生物が持つヒト型の糖鎖を研究することでその解明に取り組んでいます。

那須 敦也さん

伊藤先生は研究の指導を通じて社会で役立つ考える力や人間力を鍛えてくれます。将来はIT企業で活躍するのが私の目標です。

野元 優介さん

線虫を使うことで、通常ヒトでは観察できない受精から孵化するまでの過程を研究しています。特に遺伝子の動きをコンピュータで解析しています。

古田 晋梧さん

ある遺伝子が想定外の時期に発現することがあるという現象が確認されています。その遺伝子の機能予測をする研究に取り組んでいます。

Fahmi Muhamadさん

カエルと蛇の遺伝子について研究しています。留学生の私に、先生も仲間も親身に接してくれるのを楽しく研究に取り組んでいます。



山本 忠

法学部 教授

幼少期に病気で苦しんだ経験から、人の役に立ちたいという想いで法学の道へ。格差や貧困などの問題が深刻化する日本で、社会保障のあるべき姿を探る研究に取り組んでいる。

山本 忠ゼミ

●衣笠キャンパス 法学部

テーマ 「これからの社会保障のあり方を考える」

少子高齢化により機能不全に陥った日本の社会保障。このゼミでは、年金・医療・児童福祉・高齢者介護・障害者福祉など、様々な社会保障・社会福利制度を個別に分析し、法政策の視点から解決策を探る研究をしている。

ゼミ生VOICE

足立 美咲さん

待機児童問題を解決する方法について研究しています。将来は地方公務員になって、社会に貢献する仕事をしたいと考えています。

井越 望実さん

将来は福祉職に就きたいと考えています。そのためゼミでは障害者の雇用に注目し、どうすれば雇用促進が進むのかを探っています。

小瀬 史織さん

国民年金の未納問題について研究しています。特に若者の年金に対する意識や年金制度への理解度に注目して研究しています。

神田 真歩さん

家族の介護に携わった経験から介護保険法に関心を持ちました。2017年に成立した改正介護保険法の問題点を研究しています。

黒田 愛花さん

女性の社会進出に注目しています。男性の育児協力が重要な鍵になるので、男性の育児休暇取得の現状とこれからについて研究しています。

柴田 茉実さん

仲のいいゼミなのでイベントも盛りだくさんです。みんなと一緒に今宮神社へお参りして、あぶり餅を食べたのがいい思い出です。

高畠 晓寛さん

生活保護の不正受給がある一方、受給要件を満たしているのに保護されないケースもあります。こうした問題の解決策を探っています。

高原 珠里さん

国民年金の未納問題について研究しています。特に若者の年金に対する意識や年金制度への理解度に注目して研究しています。

竹田 愛さん

障害年金において、精神の障害に係る等級判定ガイドラインについての問題点を挙げ、適切に運用されるための改善策を考えています。

都築 諒さん

介護離職問題について研究しています。人材不足を解決するために、雇用側がどのように離職防止の対策ができるのかを検討しています。

布留川 麻衣さん

貧困の連鎖を絶つためには、子どもへの教育支援が解決策の一つです。そのため、教育支援における地域間格差を是正する方法を探っています。

不破 なぎさん

年金の未納問題について研究しています。社会保障のあるべき姿を研究しています。行政の仕事に携わりたいと考えています。

三上 慧さん

社会保障を学びたくてこのゼミを選びました。介護保険について研究し、必要な人が適切なサービスを受けられる制度のあり方を考えています。

水谷 朱里さん

認知症患者の要介護認定は評価が難しいという問題があります。適切な保障のためにはどのような制度設計が必要なのかを研究しています。

遊佐 はるかさん

他大学と一泊二日で行う合同ゼミ合宿が面白かったです。私たちのゼミは南海トラフ地震や震災遺児について発表しました。

吉澤 あやねさん

「虐待家庭の再統合」というテーマを研究しています。諸外国の制度と比較しながら、行政や司法のあるべき姿を探っています。

米澤 佳穂さん

地域福祉の住民参加について研究しています。ゼミで学んだことを活かして、将来は地方公務員になって地域に貢献したいと思っています。





河村 律子

国際関係学部 教授

京都大学農学部出身。農村社会学を出発点とし、食と農は社会の基礎要件であるとの視点から、グローバル化する社会の中での農村地域の持続可能なあり方を研究している。

河村 律子ゼミ

●衣笠キャンパス 国際関係学部

テーマ 「地域と食料・農業問題を考える」

食料や農業に関するテーマを研究。世界の飢餓など国際的な課題と共に、日本の農業や食文化なども研究の対象。2009年から南丹市日吉町五ヶ荘地域での地域活性化に携わっており、学生とフィールドワークを実施している。

ゼミ生VOICE

秋山 純一さん
月2回の日吉町でのフィールドワークを実施しています。朝市カフェを開いてコーヒーを提供し、現地の人々と交流したのは貴重な体験でした。

案浦 紗伎さん
食料に関して、今、世界で何が問題になっているのかを研究しています。また、過疎地域を活性化するための実践的な活動にも取り組んでいます。

岡阪 奈美さん
核家族や独り身世帯が増えるなど、日本の家族構成が変化する中で、食卓はどう変化し、今後どうなっていくのかを研究しています。

金田 和瑚さん
私が地方出身なので、地域と食料の問題に関心があります。日吉町では泥だらけになって田んぼアートに挑戦したのが楽しかったです。

小林 夏菜さん
日吉町で廃校になった小学校に宿泊して、学外ゼミを実施しました。カレーを作ったり、ホタルを見たり、楽しい合宿が思い出に残っています。

小林 棱弥さん
国際的な視点と地域の視点で開発問題を研究しています。児童労働と国際開発、農業と地域開発など様々なテーマにアプローチしています。

佐渡 朋佳さん
食料問題と地域おこしに関心があつたのでこのゼミを選びました。食品ロスの増加に注目して、日本の現状と将来について研究しています。

田中 友里菜さん
日本の地域問題から、世界の食料問題まで幅広く学んで視野が広がっています。将来は農業や食などに関わる仕事を就きたいと考えています。

西川 すず花さん
食料問題の解決策として水産分野に注目しています。食料供給や環境問題の視点から、養殖業の持続可能性について研究しています。

林 朱里さん
将来は貿易の仕事に関わりたいと考えているので、物流やマーケティングの視点から「食」の流通について考えています。

藤原 奈津希さん
私は福島県出身なので地元の農業と原発問題について研究しています。生まれ育った街が元気になる方法を見つけたいと思っています。

宮井 理紗子さん
日吉町で獲れた食材を使って一日食堂を開いたのがいい思い出になりました。食べに来てくれた友人に好評でうれしかったです。

松岡 駿さん
見た目はかわいいけれど、深刻な獣害をもたらす鹿。私は獣害対策のために、里山地域の共同体がどうあるべきかを研究しています。

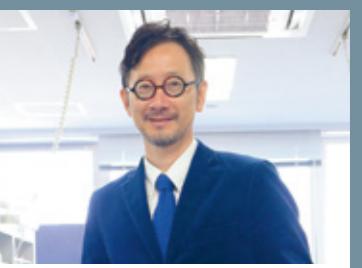
三嶋 梨子さん
過疎の問題を抱える日吉町を訪問し、地域活性化の難しさを実感しました。ゼミの仲間と一緒に何ができるのかを考えています。

三原 優佳さん
食料問題を学びたくてこのゼミを選びました。河村先生は一人ひとりに目をかけてくれて、的確なアドバイスをくれるので頼りがいがあります。

山縣 美紀さん
私は福島県出身なので地元の農業と原発問題について研究しています。生まれ育った街が元気になる方法を見つけたいと思っています。

山縣 美紀さん
地域活性化、環境問題、食料問題など幅広い分野にアプローチしながら、開発途上国が発展していく方法について考えています。

山崎 緑さん
日吉町で田んぼアートの田植えをしたり、カフェを開いたり、様々なイベントを企画し、実践できるところに魅力を感じています。



北原 亮

薬学部 教授

立命館大学理工学部出身。「タンパク質に圧力をかける」という卒業研究から、「圧力生命科学」という分野にロマンを感じ、以来20年以上にわたって研究に取り組んでいる。

北原 亮ゼミ
●びわこ・くさつキャンパス 薬学部

テーマ 「極限環境の科学から生命の謎を探る」

高圧力を用いたバイオサイエンスという珍しい分野を研究。生命現象の中心的役割を担うタンパク質が、加圧と共にどう変化するのかを研究することで、生命現象への理解を深め、医薬品開発などにつなげることを目指している。

ゼミ生VOICE

青島 佑さん
ユビキチンというタンパク質を研究しています。ミトコンドリアの品質管理に関与しており、バーキンソン病の治療にも役立つ可能性があります。

今久保 美咲さん
シアノバクテリアの概日リズムについて研究しています。先生も先輩方も親切な方々で大変お世話になっています。

奥田 三四郎さん
TDP-43というタンパク質を核磁気共鳴(NMR)法で解析し、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の発病のメカニズムを解明することを目指しています。

川村 宇宙さん
葉緑体の起源とされるシアノバクテリアが、体内時計を持っていることに注目して研究しています。サイエンス誌に掲載されるのが私の目標です。

齋藤 麻那さん
構造生物学に可能性を感じてこの研究室を選びました。タンパク質の構造と特性を解明することでき創薬や多様な産業分野に活かすことができます。

佐々木 陽子さん
神経難病ALSの解明にもつながるかもしれないTDP-43というタンパク質について研究しています。将来は薬剤師になることを目指しています。

坪木 亮尊さん
ライム病のワクチンとして期待されるOspAというタンパク質を研究しています。先生や先輩が優しく指導してくれるのが研究室の魅力です。

松田 千広さん
仲間と協力しながら研究に取り組むところに研究室の魅力を感じています。チームで結果を出すために役割分担しながら研究に取り組んでいます。

三橋 景汰さん
高圧力をかけて通常では観察することのできないタンパク質の様々な姿を知ることができます。未知の研究成果を上げることも期待できます。

安永 和寛さん
北原先生に憧れてこの研究室を選びました。体内時計を持つバクテリアに注目し、時計の本体と思われるタンパク質の動きの解析に挑戦しています。

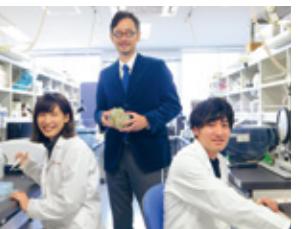
山崎 夏帆さん
ライム病に関わるOspAというタンパク質の研究をしています。一から十まで懇切丁寧に教えていただけて、とても理解が深まり、研究しやすいのが魅力です。

柳 恵一郎さん
陽気なメンバーが魅力だったのでこの研究室を選びました。信頼できる仲間と共に、ユビキチンというタンパク質の研究をしています。

米沢 安優さん
不要なタンパク質の除去、DNA修復、シグナル伝達など多彩な機能を持つユビキチンというタンパク質について研究しています。

若本 拓朗さん
タンパク質に圧力や温度変化を与えてその動きや役割を解明しています。原子レベルで解析可能な核磁気共鳴(NMR)法を用いて研究しています。

渡邊 愛悠さん
最近の研究を調べるとアルツハイマー病に関する論文が興味深く、タンパク質の解明が様々な病気の治療に役立つことを改めて実感しました。





立命館大学では約430のクラブ・サークルが、日々活発に活動しています。このコーナーでは課外活動に励む学生に、その魅力を語ってもらいます。



バレーボール部

主務
植木 初音さん
文学部4回生

主将
大手 一真さん
政策科学部4回生

一人ひとりが主役のチーム。
全国に立命館の名を轟かせたい。

大手さん 私たちバレーボール部は関西で最もレベルの高いリーグでしのぎを削っています。目標は関西リーグを制覇し、全国でも立命館大学の名を轟かせることです。それが狙えるチームなので、待ち前の明るさと勢いを武器に、上を目指してがんばっています。バレーボールの試合を観たことがある人は少ないかもしれません、迫力があって面白いのでぜひ一度試合を観に来てください。

植木さん 主務兼アナリストを務めています。試合に出場する選手だけでなく、控え選手や私たちサポート役もチームの一員です。勝利という目標に向かって、それぞれが自分の役割を全力で果たしているので、チームとしての一体感があります。選手にアドバイスを求められるなど、頼りにされた時は大きなやりがいを感じます。



「練習は選手の主体性を重視する」という大手さん。一人ひとりが今、自分は何をすべきかを考えて練習に取り組んでいる。

水泳部

水球部門 主将
澤 聖人さん
経済学部4回生

競泳部門 主将
小島 里野さん
スポーツ健康科学部4回生

BKCの屋内プールを練習場に、競泳、水球、飛び込みに取り組む。

澤さん 水球部門の主将を務めています。私たちのチームは関西の学生リーグでなんと12連覇中。年々、他大学のマークが厳しくなっているのを感じていますが、絶対に私の代で記録を途絶えさせたくないで、緊張感を持って練習に取り組んでいます。「組織はリーダーで伸びる」というのが私の持論。自分が率先垂範することでチームを引っ張っていきたいと思っています。

小島さん 競泳部門の主将を務めています。競泳部門の魅力は、初心者で始めた人から、関西トップクラスの選手まで、幅広い部員がいるところです。大切にしているのは、タイムだけでなく練習にかける情熱の量。たとえすぐには結果が出なくても、努力は必ず形になると信じて、一人ひとりが自分と戦っています。



各部門の練習は別々に行っているが、「結果が出た時はみんなで喜びを分かち合う」という連帯感の強いところがチームの魅力。

京都チーム「櫻嵐洛」

前代表
阿部 朗久さん
経営学部3回生

「よさこい」にかける熱い想い。
ここでしか味わえない感動がある。

全国のよさこい祭りに参加して、パフォーマンスを披露しています。部員は約200名と大所帯で、他大学の学生や社会人も参加しているインカレ&社会人サークルです。大きな舞台としては、6月の北海道と8月の高知の全国大会があります。これらの大会で結果を残すことも大切ですが、私たちが最も大切にしているのは、一人ひとりが「青春すること」。踊ることで自分が笑顔になるだけでなく、まわりの人も笑顔にできる、そんなパフォーマンスを目指しています。前回の高知の大会では、3日間ほとんど休みなしで50回も踊りを披露し、終わった後はすべてを出し切って動けないほどでしたが、やりきった達成感でみんな見たことがないくらいの笑顔でした。そんな感動を味わえるところに大きな魅力を感じています。



高知で行われたよさこい祭りでの集合写真。
「本気で練習するから感動がある」というのがモットーで日々の練習でも全力で踊っている。

IVUSA京都衣笠クラブ

代表
桑江 朝寛さん
産業社会学部4回生

誰かのために、自分は何ができるのか。
他者への貢献が自分を幸せにしてくれる。

国際ボランティア学生協会IVUSAの京都支部(衣笠クラブ)で代表を務めています。主な活動は①地域活性化、②環境保護、③災害支援、④国際支援、⑤子ども教育支援などで、それぞれにプロジェクトを組んで活動をしています。例えば、私がプロジェクトマネージャーを務めた静岡県西伊豆町での活動では、少子高齢化などの地域の課題を住民の皆さんと一緒に考え、持続可能なまちづくりに取り組みました。たくさんの人の考え方やゆずれない想いに触れながら、「町を元気にしたい」という同じ目標に向かって活動できた経験は、私にとって忘れられない思い出です。まだまだ組織の知名度が低いので、これからはもっと広報活動に力を入れて、より多くの学生にボランティアの輪を広げていきたいと思っています。



「学生の熱意で社会を動かしたい」という想いのもと、普段はキャンパス周辺の清掃や小学校での防災教育などの活動も行っている。



総合心理学部

矢藤 優子 教授

専門—比較発達心理学、乳幼児心理学

立命館大学には多様な分野の専門家である教員が揃っています。

「知への扉」では最先端の研究に取り組む教員をお招きして、その分野の魅力や可能性について語ってもらいます。

今日は子どもの発達について研究する総合心理学部の矢藤先生にお話を聞きました。

**乳幼児期の子どもを客観的に観察し、
ヒトの発達の過程を解き明かします。**



Profile

大阪大学人間科学部卒業後、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。富山短期大学講師、JST社会技術研究開発センター研究員などを経て、本学文学部心理学専攻准教授へ。現在は総合心理学部教授でR-GIROプロジェクトリーダーを務める。

日常の中で子どもはどんな行動をするのか。
その様子から発達の過程を分析します。

—矢藤先生のご専門分野について教えてください。

比較発達心理学、乳幼児心理学を専門にしています。例えば、家庭や保育園など、子どもたちが日常的に過ごす空間の中での行動を観察することで、発達の過程を客観的に分析しています。特に注目しているのは周囲の環境との関わり方。養育者、家族、地域、文化などと子どもがどのように接しているのかを観察しています。その一つに他者と同じものに注意を向ける「共同注意(joint attention)」と呼ばれる現象があります。お母さんが見ているものを子どもも見たり、保育士さんが指をさしたら子どもたちがそっちを見たり、共同注意に関わる行動は、子どもの認知発達やコミュニケーションを理解する上で重要な意味を持ちます。これまでの研究では、視覚的な分析がほとんどでしたが、私は触覚や聴覚などにも範囲を広げて分析しています。また、近年では行動計測機器としてデジタルペンを使って、乳幼児が字を書いたり、絵を描いたりする様子を分析しています。デジタルペンによって書くスピードや筆圧、書き順などの情報を分析し、子どもの発達過程を解き明かす材料にしています。

学生時代のゼミでの観察対象はニホンザル。
その研究手法が今に役立っています。

—なぜこのような分野を研究するようになったのですか?

私がこのような研究をするようになったきっかけは、学生時代に入ったゼミの影響が大きいです。行動観察を専門とする研究室に入ったのですが、観察対象だったのはなんとニホンザル。3回生になる前にゼミに入ってから大学院修了までの8年間、ニホンザルにエサをあげたり、オリを掃除したり…という生活を続けていました。その時に学んだ研究手法を活用して、現在はヒトの赤ちゃんを観察対象にして研究をしているわけです。

ヒトの発達を時間軸で見ることで、
より深い人間理解につながります。

—研究分野の魅力を教えてください。

子どもの行動を観察するという多くの人が保育や幼児教育のための学問だと考えるのですが、私の場合は少し違って、ヒトの発達の過程を客観的に分析することに重点を置いています。私は乳幼児期に注目していますが、子どもじゃなくなつてからも、青年期、壮中年期、老年期とヒトは生涯にわたって発達を続けます。発達の過程を明らかにし、ヒトという存在を時間軸の中で見ることで、より深い人間理解につながるというところが子ども研究の魅力ではないでしょうか。

子育ての科学的根拠を蓄積し、
対人援助のあるべき姿を探ります。

—学融的な発達研究にも取り組んでいるそうですね。

はい。私は現在、拠点形成型R-GIRO研究プログラムの研究プロジェクトとして「学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成」というテーマのもと、大規模な発達研究のプロジェクトリーダーを務めています。この研究は「対人援助」をキーワードに、ヒトの成長の過程やそれに伴う課題などを学融的に研究し、科学的根拠(エビデンス)に基づいた援助のあり方を模索するというものです。例えば、皆さんは「子どもを叩いてはいけない」ということを理解していると思いますが、なぜいけないのか、どのようにいけないのか、を具体的に説明することでより認識が深まります。子どもは叩かれることで短期的には言ふことを聞くかもしれません、長期的に見ると学校への適応など発達の様々な側面に望ましくない影響がみられるといったデータもあります。今回の研究では、行動観察、生理指標、質問紙、インタビューなど様々なデータを蓄積し、科学的根拠に基づく子育て支援を実現していきたいと考えています。



中国、米国などと国際
比較をしており、現地
の大学との学術交流も
積極的に行っている。

先生の横顔



お子さまが保育園で書いてくれた手紙。自身も一児の母として「働きながら子育てをする女性を応援したい」という矢藤先生。現代の働く女性像を体現している研究者である。



ビットコインの未来

ビットコインは世界を変える通貨になるのか。

「ビットコインが歴史的急騰」「某国がビットコインを禁止に」など、ビットコインを巡る刺激的な見出しのニュースが連日報道されています。ビットコインとはそもそもどういうもので、なぜこれほど話題になっているのでしょうか。銀行での実務経験を持つ播磨谷先生に聞きました。

※この記事は取材時(2018年1月現在)の情報に基づいて作られています。ビットコインを巡る状況は日々急激に変化しており、掲載内容と異なる状況になっている場合があります。

まだ謎が多いビットコイン。 そもそも仮想通貨とは?

—ビットコインとはどんなものなのですか?

ビットコインとは仮想通貨の一つであり、インターネット上に存在するお金のことで実物の紙幣や硬貨は存在しません。「ブロックチェーン」という優れた暗号技術を用いたシステムを使っていることから暗号通貨とも呼ばれています。ビットコインは仮想通貨の元祖と言われていますが、「仮想通貨=ビットコイン」ではなく、ビットコインの技術をもとにすでに1000種類以上の仮想通貨が登場しています。日本円や米ドルなどの法定通貨は国が発行し、管理す



播磨谷 浩三

経営学部 教授

Profile

関西大学経済学部卒業後、神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程修了。旧・中央信託銀行株式会社勤務、札幌学院大学准教授などを経て、本学経営学部教授へ。

ますます盛り上がるビットコイン狂想曲。 その原因はどこにあるのか。

—では、なぜビットコインはこれほど人気なのですか?

まずビットコインの取引を成立させているブロックチェーン技術というシステムの秀逸さがあります。これは従来のサーバー集権型のシステムとは異なり、ユーザー同士でシステムを管理し合う構造で、一部では「インターネット以来の発明」とまで言われています。これによりシステムがダウンするなどのリスクがなく、海外などへの送金のコストも大幅に削減できます。さらにブロックチェーン技術は優れた分散型の暗号システムのため、データの改ざんはほぼ不可能です。そして、ここ最近の熱狂ぶりは、投機対象としての魅力、つまりは価格の変動幅が大きいことが理由でしょう。ほんのわずかな期間で価値が何十倍にも膨れ上がって、億万長者になった人が登場するなど、夢のあるニュースで多くの人の注目を集めることになりました。

※ブロックチェーン技術は右図もご参照ください。

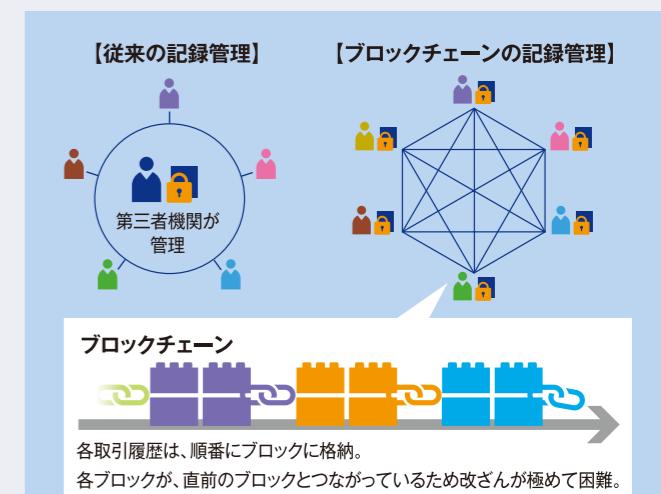
■ビットコイン・法定通貨・金の違い

	ビットコイン	法定通貨	金
発行主体	なし	国 (中央銀行・政府)	地球
形態	電子データ	紙幣・硬貨	現物
発行量	上限あり ^{※1}	上限なし	有限
価格変動	需要と供給 次第	額面は一定 ^{※2}	需要と供給 次第

※1…発行ベースが決まっており、2040年頃までに2100万ビットコインを発行する。

※2…物価上昇率によって価値が変動する。

■ブロックチェーンシステムのイメージ



※経済産業省「ブロックチェーン技術を利用したサービスに関する国内外動向調査」に掲載の図を一部改変。

ビットコインの未来は明るいのか。

貨幣の役割の面から考える。

—これからビットコインは貨幣に取って代わるのでしょうか?

個人的な見解は「NO」です。少なくとも時期尚早だと考えています。普段我々が使っている貨幣には三つの機能があり、支払い機能を果たす「交換手段」、モノの価値を示す「価値尺度手段」、そしてお金を蓄える「価値貯蔵手段」、これらを満たして初めて貨幣であると言えます。しかし、私は価格が乱高下するビットコインに「価値貯蔵手段」の機能があるかどうかは疑わしいと考えています。1万円札を持っていると1万円分の価値を保存できるのが貨幣の機能ですが、価格が乱高下するビットコインにはその機能を感じにくいのが現状です。もちろん、物価の上昇や下落で1万円札の価値も多少は変動しますが、日本円が国際的に信用を失ってハイパーインフレでも起きない限り、短期間でこれほど乱高下はありません。

示したのは仮想通貨の可能性。

冷静に分析する姿勢を大切に。

—では、私たちはビットコインをどう見ればいいのでしょうか?

派手に値上がりするとどうしてもそこに注目してしまうが、リスクについても知っておくべきだと思います。株式投資は背景に企業がありますし、FX(外国為替証拠金取引)などは米ドルなどの後ろ盾のある通貨が対象ですが、ビットコインは誰が作ったのかすらもわからないもので、投資対象としても極めて異質です。所有する人の内訳を見ても、わずか数%の投資家がビットコイン

の95%以上を所有しています。もし、その人たちが手放したら?あるいは、より後ろ盾が明確で信頼性の高い仮想通貨が登場したら? ビットコインを巡る今の状況は一部の投資家に「バブル」と言われていますが、それは一瞬ではじけるリスクをはらんでいるという意味であります。

一方で、先に述べたブロックチェーン技術は素晴らしい発明です。2018年1月にビットコインと同じブロックチェーン技術を使った仮想通貨NEMの大規模な流出事件が発生しましたが、これは1取引所のずさんな管理が引き起こした問題であり、ブロックチェーン技術の信頼性とはまったく無関係だと言えます。すでに日本のメガバンクではブロックチェーン技術を使ったサービスを開始しており、これからますます拡大していくと考えられます。また、日本の紙幣と違って諸外国では偽札の問題が深刻なので、「現金のない世界」は一つの解決策であり、仮想通貨はそれを実現する大きな可能性の一つです。しかし、それが今なのか、そして、ビットコインなのか——それを判断するにはもう少し時間と根拠が必要なように思います。



「金融論は学生にとって一見難しいテーマですが、理詰めで話すとわかるもらえる」という播磨谷先生。難解なテーマでも身近な事例を交えて解説する講義が学生に人気を博している。



Letters from graduates

卒業生からの手紙

•四通目•



女子駅伝で立命館大学を何度も全国優勝に導いたエース

夢中で駆け抜けた学生時代。 苦しさを乗り越えた経験は、 今の私の支えになっています。

ダイハツ工業株式会社
パワートレーン開発本部
大森 菜月さん
2017年3月スポーツ健康科学部卒業
大阪府出身



Profile

ダイハツ陸上競技部に所属する長距離走者。大学時代は5000メートルで日本インカレ優勝、準優勝を2度ずつ経験。女子駅伝では数多くの区間賞を獲得し、立命館大学を何度も優勝に導いた。

全国で活躍する先輩たちに憧れて立命館へ。成長する自分に確かな手応えを感じていた。

私が長距離走を始めたのは、マラソンやトライアスロンが趣味だった父の影響です。練習の合間に公園で遊んでくれたり、終わったらご褒美をくれたり、幼い私が走ることを嫌いにならないように思いやってくれた父のおかげで、私は「走ること=楽しいこと」だと思っていました。中学で陸上部に入ったのも、大好きな長距離走ならきっと一番になれると思ったからです。

壁にぶつかったのは高校時代。いくら努力してもなかなか結果につながらず、大舞台で活躍する選手を眺めることしかできない自分が歯がゆくて仕方ありませんでした。そんな時にテレビで見かけたのが、立命館大学の女子陸上競技部のえんじのユニフォームです。華々しい舞台で活躍する選手たちの姿が眩しくて、「私もこんな風に走りたい」と思って立命館大学への入学を決意しました。

女子陸上競技部に入部すると、一緒に練習するのは私が憧れていたスター選手たち。そのチームの一員であることがうれしくて、再び走ることが楽しいと思えるようになっていました。また、高校時代はあれだけ結果が出なくて苦しんだのに、大学生になると一転、走る度に自己ベストを更新し、大会に出る度に区間賞を獲得するなど、私にとって絶好調の時期が訪れました。チームも駅伝の全国大会で連覇を果たし、何もかもが順風満帆だったと思います。

しかし、怖いもの知らずだった1回生と違って、2回生、3回生になると周囲の期待も大きくなるし、上級生としての責任も出てきます。チームは日本一の連覇を続ける中で、私は期待に応えようとするあまり、少しずつ無理をしていたのかもしれません。

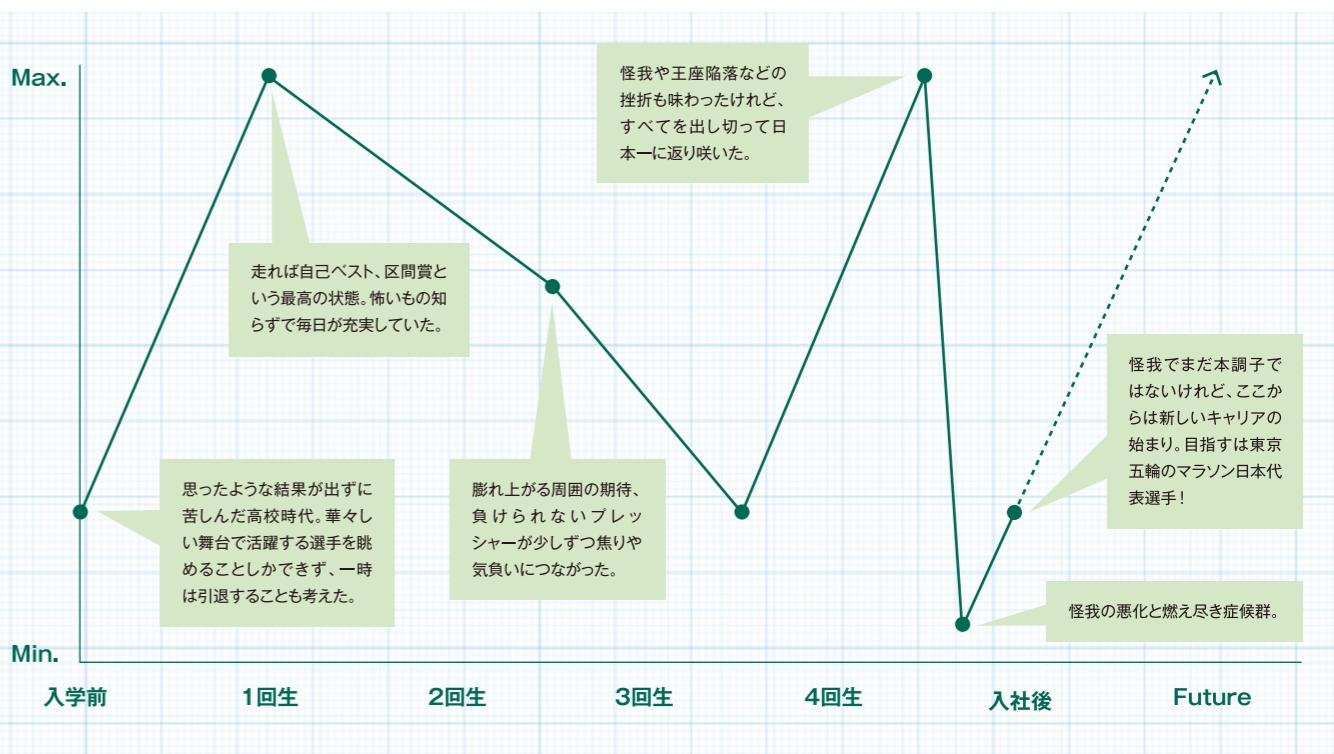
挫折を乗り越え、やりきった4年間。
これから始まるのは新しい物語。

「チームが苦しい時は私が引張らないと」そんな責任感が気負いを生んでしまったのか、4回生の時にはオーバーワークによる疲労骨折を経験。直後の全日本大学女子駅伝には怪我を押して出場しましたが、チームは2位となり、連覇が途絶えるという悔しい経験をしました。今、振り返ると心身共に最も苦しい時期でしたが、2ヶ月後の富士山女子駅伝が大学最後の駅伝大会。必ず日本一に返り咲くという強い気持ちを持って出場し、仲間が2位でつないでくれたたすきを激しいデッドヒートの末に1位でつなぐことができました。

チームはそのまま1位を譲らずに見事に優勝。怪我の影響で万全のコンディションではなかった私は最も短い区間しか走れなかつたけれど、仲間が最後まで首位を守りきってくれたことが何よりもうれしかったです。私の大学4年間には苦しい時期もありましたが、すべてをやりきったという達成感を持って立命館大学を卒業することができます。

そして、現在は名門のダイハツ陸上競技部に所属することができます。立命館大学に入った時と同じように、スター選手と練習できる環境にワクワクしています。私自身は長引く怪我のためにデビューが遅れてしまい、夏の合宿からやっと本格的に始動したばかり。まだ自分本来の走りを取り戻せていませんが、今は走れるようになった喜びを噛みしめながら少しずつ調子を上げていきたいと思っています。そして、将来の夢は2020年東京オリンピックで日本代表のマラソン選手として走ることです。今が私の新しいスタートラインだと思って、これから一步ずつ足跡を刻んでいきたいと思います。

糸余曲折グラフ



あるある



探検隊

●第1回MISSION●

BKCの遺跡を調査せよ!

びわこ・くさつキャンパスの陸上競技場の地下には、古代の遺跡が眠っているとの噂がある。今回は岸本隊員がその実態調査に乗り出した。

いってきまーす!

ほけわら
木瓜原遺跡

立命館のキャンパスには、私も知らない不思議がいっぱい!

陸上競技場を地下に下りていくと10m×10mくらいの敷地に遺跡の一部が保存されていました。木瓜原遺跡はびわこ・くさつキャンパスを造る過程で発見され、一部を保存することになったそうです。7世紀頃に製鉄や製陶、梵鐘の鋳造などを行っていた場所で、ここに保存されているのは製鉄炉のいわゆる「たたら場」として使われていたものだそうです。

..... プレゼントクイズ

Q.
「木瓜原遺跡」にちなんで木瓜の花の英語名から名付けられた陸上競技場の名前は?

ココ!
木瓜原遺跡

アグッズ!
R

応募はWebから!

こちらのグッズをプレゼント!

立命館 父母教育後援会

検索

QRコード

PROFILE



岸本 京隊員
産業社会学部 4回生
明るい笑顔でいつも元気。大学のイベントで広報や司会をするのが得意。将来の夢は報道関係の仕事に就くこと。

春の行事案内

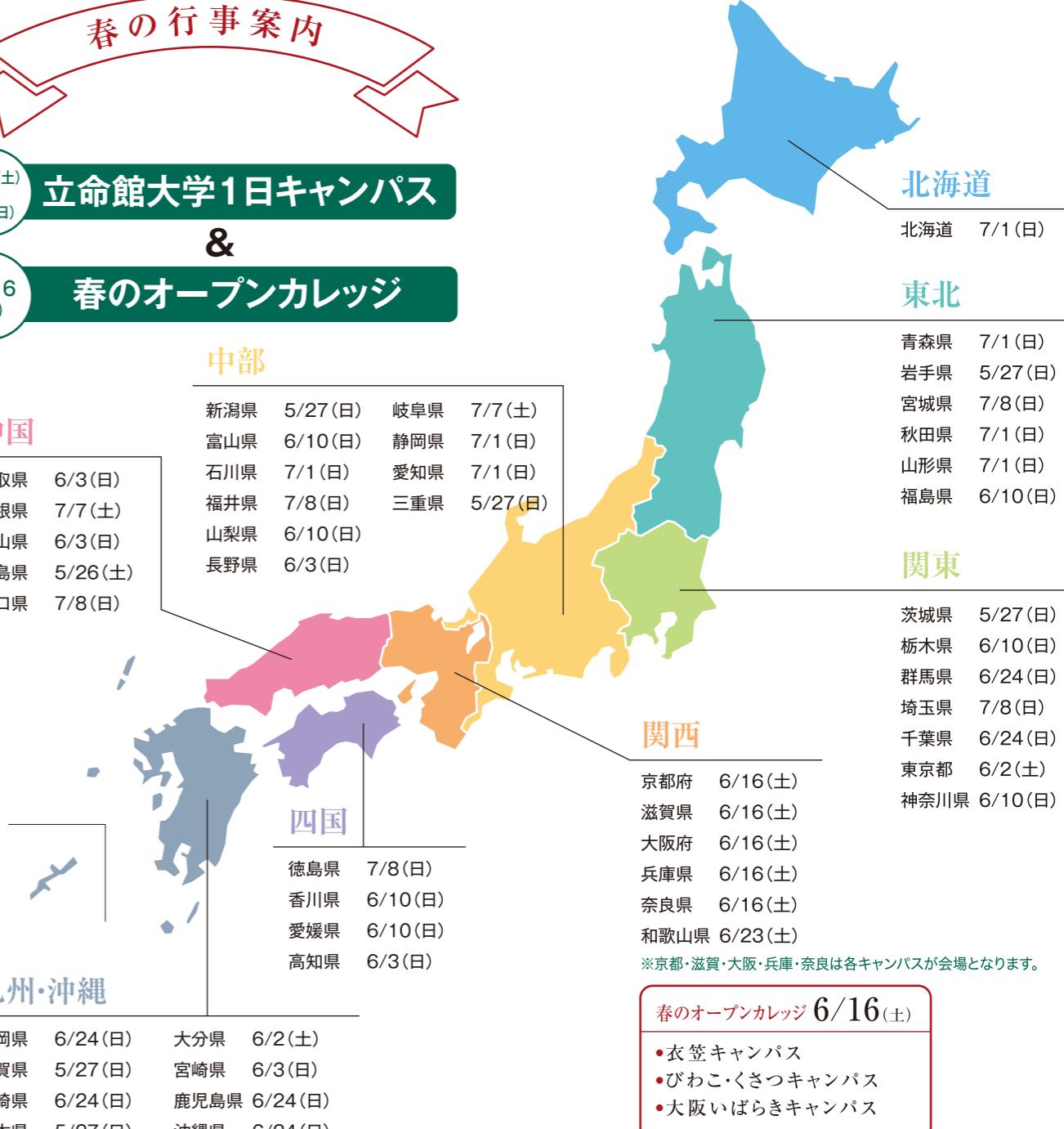
5/26(土)
～
7/8(日)

立命館大学1日キャンパス

&

6/16(土)

春のオープンカレッジ



中部	中国	関東
新潟県 5/27(日)	岐阜県 7/7(土)	青森県 7/1(日)
富山県 6/10(日)	静岡県 7/1(日)	岩手県 5/27(日)
石川県 7/1(日)	愛知県 7/1(日)	宮城県 7/8(日)
福井県 7/8(日)	三重県 5/27(日)	秋田県 7/1(日)
山梨県 6/10(日)		山形県 7/1(日)
長野県 6/3(日)		福島県 6/10(日)

関西	四国	九州・沖縄
京都府 6/16(土)	徳島県 7/8(日)	福岡県 6/24(日)
滋賀県 6/16(土)	香川県 6/10(日)	佐賀県 5/27(日)
大阪府 6/16(土)	愛媛県 6/10(日)	長崎県 6/24(日)
兵庫県 6/16(土)	高知県 6/3(日)	熊本県 5/27(日)
奈良県 6/16(土)		沖縄県 6/24(日)

※京都・滋賀・大阪・兵庫・奈良は各キャンパスが会場となります。

春のオープンカレッジ 6/16(土)

- 衣笠キャンパス
- びわこ・くさつキャンパス
- 大阪いばらきキャンパス

秋の行事案内

10月中旬～
11月下旬

秋のオープンカレッジ



学生たちと触れ合う
学園祭への招待

秋には学生たちが運営する学園祭に保護者の皆さまを招待し、模擬店で利用できるチケットをお渡しします。

11/18(日)

アカデミックウォッチング



立命館と京都の
英知に触れる

立命館大学がプロデュースする知的体験ツアーを実施します。教員や講師による講演、歴史散策、文化体験など、盛りだくさんの内容で例年好評です。



—BKC 近江の往昔—

「近江の都」といえば、667年に天智天皇が築いた近江大津宮が思い浮かぶ。白村江の戦に敗れ、唐・新羅の侵攻が懸念される中で、交通至便の近江の地を選んだというのが、一般的な理解であろう。確かに近江は、古代の主要街道である七道のうち、東に向かう東海道など三道がこの国から発する要地で、しかも、その中央に位置する琵琶湖は、物資流通の面でも重要な役割を担っていた。日本海沿岸地域から敦賀を経て湖北へと至り、琵琶湖の水運を利用して畿内へと運ばれたのである。同時に、朝鮮半島からの渡来人や文物も同じ経路を辿り、渡来人は沿岸地域から畿内へと向かう途上に新たな居住地を定めた。今日でも近江には、様々な伝承と共に、その痕跡と見られる地名が多く遺されている。

応神朝に渡來した弓月君の子孫とされる秦氏は、平安京の西を流れる桂川(保津川)の治水と灌漑を進めたことで知られ、その本拠に太秦の地名を伝えるが、近江にも同じく秦氏が居住していた。



BKCの地下に保存されている木瓜原遺跡。予約すれば学生や市民が見学することもできる。



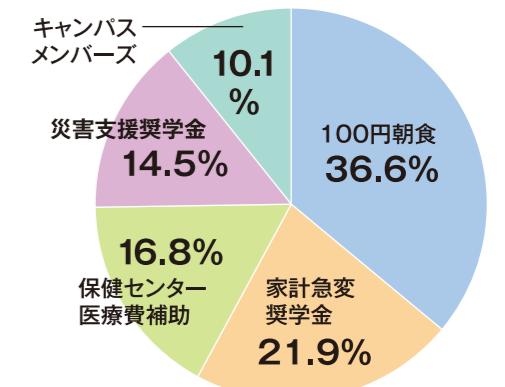
文学部
本郷 真紹教授
専門分野:日本古代史



今年夫が亡くなり家計急変奨学金の申請をしました。実は夏に懇談会に出席しこの奨学金のことを知り、今回申請することができました。懇談会に出席していなかったら、奨学金のことは知らなかつたと思います。遠方に住む保護者にも配慮していただいているお心遣いに感謝致します。
(静岡県・生命1回生・男の保護者)

子どもから何気にサークル活動の話を聞いていましたが、サークルと言っても色々な活動があるのだと改めて感じました。地域と密接にかかわり、貢献していく形にも色々な物があるので。学生のうちに自分たちの活動をどのように役立てるか、広げていくかを実際に試みていく姿勢を身につけていくことは、大学生活での学びの中で一番重要なと感想です。(愛知県・文2回生・男の保護者)

父母教育後援会の学生支援事業でご存知のものは?



学生支援事業の詳細はWebサイトでご確認ください。

立命館 父母教育後援会 検索

毎号ゼミナール訪問を楽しみにしています。読んでいて私自身も学びたいという気持ちになります。アカデミック講演会で先生方のお話を聞けることを楽しみにする気持ちが高まりました。
(静岡県・経済2回生・女の保護者)

「知への扉」の竹内先生の記事は興味深く読みました。産業社会学部の教授が自閉症の研究をされているとは!! 本の紹介もあったので、読んでみようと思いました。立命館大学の先生方は専門が幅広く揃っていらっしゃるんですね。
(愛知県・産社1回生・男の保護者)



立命館大学奈良県ファミリー会が開催。

2018年2月4日(日)、奈良市内にて「第1回立命館大学奈良県ファミリー会」が開催され、多数の保護者の皆さまが参加されました。当日は、地元へのUターン就職を目指す学生とその保護者の皆さまを対象に、地元の地方自治体や企業などで活躍する校友*をお招きして交流を深める情報交換会を実施しました。

第1部「就活応援セミナー」では、キャリアセンター職員による就職支援の説明に続いて、校友による講演や個別相談などを実施しました。また、第2部、奈良県校友会と父母教育後援会の合同開催となる「立春会(新春の集い)」

*立命館大学では卒業生のことを校友と呼んでいます。

では、円卓を囲んで校友・保護者・学生が親睦を深めながら情報交換を行いました。

